

開催日 平成21年7月30日(木)

時間 13時～16時

会場 愛知教育大学 美術・技術・家政棟2階 デザイン演習室

参加者数 18名

講座概要 自己を表現する方法のひとつとして「マーク」のデザインに取り組み、できあがったマークを周りの人に伝える楽しみを体感する講座。

講師 富山祥瑞(とみやましようずい) 愛知教育大学教授

講師略歴 1958年、宮崎県生まれ。20年間の広告代理店勤務を経て2003年に愛知教育大学に着任。普段は「美術は個性や才能の産物ではないよ」「誰でもできるようになるのが教育の目的だよ」といったことを、大学生に教えている。

企画 愛知教育大学

講座の実施内容

●悩まないための講座

「自分を表現するマークを作ろう」——誰も、そんなテーマをいきなり与えられたら悩んでしまう。ただただ白い画用紙にらめっこ。「自分って何者?」——このヴィジョンを掴まない限りは進みようがない。そして「マーク」とは、そもそも「意味を伝えるカタチ」である点を理解してもらうことが重要である。造形性ばかりを追っても、全然「自分マーク」にはならない。参加してくれた小学生が、こちらの準備したステップを踏んでいくことで、悩むことなく、講座の終了時にはみんな「自分マーク」を持って帰れる! そんな成果を目指した。

●STEP 1…「このマーク知っている人?」

有名なマークから、無名だが何となく正体が理解できてしまうマークまで、紙芝居仕立てで賑やかなやりとりを続けた。「さて、これは何のマークでしょう?」、「これって、見たことないでしょうけど、何のマークか予想のつく人は?」(写真1参照)、「お菓子には、中身に合った商品名のマーク(ロゴタイプ)が印刷されていますね。…」。「他の人からみて、なんとなく頷いてしまうチカラを持つものが「マーク」なんだよね。」

●STEP 2…「では、自分って何者?」を考えてみよう

この段階では、自分が何者であるかを明確化させるためのワークシートを準備した。「特技は?」「趣味は?」「好きな食べ物は?」「好きな教科は?」「好きな生き物は?」、いろいろ書き込んでもらった(写真2参照)。

●STEP 3…「もう、こんな時間だね」

ここまで、かなり時間をかけたが、参加者それぞれ「自分」を表したキーワードが書けてきたようだ。「そう、君は亀を飼っているんだね。」「君は怪獣が好きなんだ。」といった具合である。ここから、ようやく制作に入る。そう!「はじめま〜す。それじゃ〜自由に考えてごらん。」では誰も悩んでしまうのである。

●STEP 4…ここからは、講師の私が考案したスピーディにできるスタンプづくり、つまり「自分マーク」をスタンプとして制作した(写真3参照)。主催者に用意してもらった郵便ハガキにスタンプを押した。「暑中見舞いを送ろうね。スタンプを見て、誰から送られてきたか分かるよだと楽しいね。」(「自分マーク」のスタンプ化教材については、<http://repository.aichi-edu.ac.jp/dspace/handle/10424/102>で公開)



「写真1」



「写真2」



「写真3」

参加者・講師等の感想

参加者から「マークについての話とスタンプ作りの2つが出来て有意義だった。」「自分だけのオリジナルスタンプを作ることが出来て楽しかった。」「自由に作ることが出来て良かった。」などの感想が寄せられ、大変好評であった。